

資 料

## 愛媛県で確認されたイボセイヨウシヨウロ

小林 真 吾<sup>1</sup> ・ 沖 野 登美雄<sup>2</sup>

A Record on the Distribution of *Tuber indicum* Cooke et Masee the Underground Fungi in Ehime Prefecture.  
Shingo Kobayashi and Tomio Okino

### ABSTRACT

*Tuber indicum* Cooke et Masee the underground fungi, was recorded in Toon city, central part of Ehime prefecture. This locality is near by nature trail of Namekawa-gorge, surrounded by trees *Pinus densiflora*, *Platycarya strobilacea* and *Clenthra barvinervis*.

### はじめに

イボセイヨウシヨウロ *Tuber indicum* Cooke et Masee は子のう菌亜門盤菌綱塊菌目セイヨウシヨウロタケ科に属する菌類で、主に地中に発生する地下生菌である。子のう果は塊状から球状を呈し、径は 1.5 ~ 4 cm 程度、表面は黒褐色で高さ 1 mm ほどのイボ状突起に覆われた独特の形態を示す（今関ほか, 1988）。本種は、優良な食菌として欧米で珍重されるトリユフ (*T.magnatum* Pico や *T.melanosporum* Vitt) に近縁な種としても知られる。以前は、欧米特有の菌類として日本に分布しないものと考えられていたが、近年、日本各地で発見が相次ぎ、比較的広い範囲に分布することが分かり始めている。愛媛県における本種の記録は、愛媛きのご観察会会員の若山氏が採集した伊予市大平産の標本を、2009 年 1 月に筆者の一人・沖野が確認したのが初見である。

### 生育状況

今回イボセイヨウシヨウロが確認されたのは、愛媛県中部の東温市の山あいに位置する滑川溪谷である（写真 1）。同溪谷は県立皿ヶ嶺自然公園の北端にあり、溪谷周辺には遊歩道が整備されている。遊歩道沿いにはアカマツやノグルミ、リョウブ、ネムノキなどの針葉樹と広葉樹からなる溪畔林が連なっている。本種が確認された

地点は、遊歩道の途中に整備された休憩場所で、コンクリート製のベンチなどが置かれた一見すると何の変哲も無い場所であった（写真 2）。通常、本種は完全に地中に潜った状態で生育しているため、表土を掻き取りながら探すのが一般的であるが、今回は子のう果の半分ほどが地表に露出して一部が割れている状態であった。したがって本種の特徴の一つとも言える内部の迷路状構造が明瞭に見ることができ、これが発見に繋がった（写真 3）。

### おわりに

本種は、沖野による前記の記録のほかにも、県内の愛好家による採集例があるが、本稿の準備段階では採集時の詳細な状況を確認することが出来なかった。県内各地に広く分布すると思われるが、現時点では採集場所の確実な情報が共有されていないため、発生地点の植生や土壌など環境的な特徴について共通性があるのか判断することができない。過去に確認された地点においても、ある種の広葉樹との関連を指摘する意見もあるが、本種は菌根菌ではないことから、どの程度の相関関係があるか現時点では確実なことは言い難い。岡山県ではアラカシおよびシラカシの生育する林縁で一度に 130 個を越える採集記録もあり（柴田, 2009）、今後本種が確認された場合には、発生環境の詳細状況を記録することが必要と考えられる。

### 引用文献

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄（1988）：日本のキノコ。山と溪谷社。575p.

1 愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究科 専門学芸員  
Curatorial Division, Ehime Pref. Science Museum  
2 愛媛きのご観察会

柴田靖 (2009) : 岡山でのトリュフ探索報告. 菌懇会通信 No.165. 14p.



写真1 滑川溪谷  
Fig.1 Namekawa-Gorge



写真2 本種が確認された地点の遠景  
Fig.2 The locality of *Tuber indicum* Cooke et Massee



写真3 イボセイヨウショウロ  
Fig.3 *Tuber indicum* Cooke et Massee